■中国新聞デジタル（デジタル記事を転写し、今谷が整理）

【詳報】平川教育長の記者会見　「こういう報道になって、本当に分からない」

2022/9/9（最終更新: 2022/9/9）

平川教育長の記者会見で、NPO法人パンゲアに関する冒頭説明と質疑応答のやりとりは次の通り。

■冒頭説明

　私の方からこのたびの週刊誌報道に説明させていただきたい。報道にあったNPO法人との契約は詳しく点検、確認を進めています。膨大な書類をやっておりまして、確認が済んでおりません。事実関係の確認に今しばらく時間が必要となる点についておわびするとともに、改めて皆さまになるべく早くご説明する機会を設けていきたいと考えております。改めて県民の皆さまに誤解や不信を招くことのないように努めてまいりますとともに、引き続き学びの変革の推進に取り組んでいきたいと考えております。

　次に、今回の報道では6月13日の県教育委員会会議の記録、県教委の会議の記録、教育長からの伝達内容によると、NPOによる指導については県で予算化、パンゲアの方から金額の算出をお願いしていると発言しており、8月19日の県議会文教委員会においてこうした発言があったかと問われた。これを否定した答弁が虚偽答弁とされております。これについて報道においても、教育長からの伝達内容、寄付者との電話会談という記載がございますので、経緯を少しお話させていただきたいと思います。実は、ある方からのご寄付200万円というのが発端です。その方は、工業高校の女子を増やすためにホームページを作ってほしいと、こういうふうに言われました。そういうことがご希望でした。本県は学びの変革を進めておりまして、その中でも工業高校の活性化、とりわけ工業高校に女子生徒を増やすためのプロジェクトに注力しておりましたので、ありがたいお話だと思いました。そのまま、向こうのご希望をお受けして、ホームページを作ったらよかったんですけども、ホームページだけを作って、工業高校に女子が増えるということもなかなか難しく、そこは学校や生徒たちを動かしていかなければなりません。寄付者とはホームページ以外の使い方を、何度もいろんな提案をさせていただいたんですけど、なかなか了承が得られませんでした。通常は、寄付金の関係でここまで難しくなることはないんですけれども、担当課も非常に苦慮しておりました。いつもは教育長としてそこまでのことはしないんですけど、担当課を助けようという思いで、多くの細かいことまで指示していた可能性は否めません。200万円でホームページも作って、工業高校4校の教職員、生徒たちを動かして、例えばワークショップなどを何度も開いてファシリテーションをする。これは教職員や生徒たちが工業高校の魅力を発信することにおいて主体的に関わることができる取り組みが不可欠だと思っておりました。こういう取り組みは、いただいた寄付金では不足が生じてしまいます。こうした状況が念頭にございまして、今回報道された記事ではパンゲアの関与ありきで業者選定が行われているとされていたので、これ自体が事実と異なるということから、文教委員会で「いたしておりません」と短く申し上げました。パンゲアの関与ありきで業者選定が行われているのではない、という趣旨を伝えたかったためにこうした答弁となってしまいました。

　ここからはちょっと長くなりますけど、報道で指摘されていますNPOによる指導の部分は県で予算化、もう一つはパンゲアの方に金額の算出をお願いしている、この発言についてご説明させていただきます。NPOによる指導の部分は、県で予算化という発言は今ご説明した通りで、もし寄付者の意向に沿おうとするなら、不足部分について県で別途予算化を検討する必要があるという認識を述べたもので、予算化を私がするということも申し上げても、そのままにはなりません。それからパンゲアの方に金額の算出をお願いしているという発言も準備段階の事業について、具体的に計画していくに当たって、どのような内容で企画して、事業費はどのぐらいが見込まれるか。これを検討するための情報収集の一環として、意見照会を行っていることを発言したわけでございます。こうした意見照会は、パンゲアさんだけじゃなくて、ほかの二つの事業者にも行っております。ただ二つの事業者については名前の公表をしないということの前提で照会しておりますので、それについてはここでどこだということが申し上げることができないということもご理解いただければと思います。長くなりましたけれど、前回の文教委員会においての私の発言はパンゲアの関与ありきで業者選定が行われているのではない、という趣旨でございます。私の答弁が丁寧でなかったことから、事実と異なる部分を含んでおりまして、皆さまに誤解を招きかねないことになったことから、その点について本当に申し訳なく思っています。

■質疑応答

　―先日の報道は8月末でした。そこから約1週間たっています。そもそも取り上げられていた職員からパンゲアのメールは存在するかどうか確認できているのですか。価格のやりとりをしているようなメール自体があったのでしょうか。

　それも含めてですね、6事業全てのメール、書類ですね。これについてやりとりも含めて、契約に至るまでのプロセスを改めて確認しているところです。これにつきましても大変申し訳ないんですが、その報告を改めてさせていただきたいと思います。

　―工業高校に女子生徒を増やす上で、担当課が苦労していたということだが、賛同してくれる人がいなくて苦労していたのですか。

　寄付者と使い道について、こちらから「こういう使い方は駄目でしょうか」「ああいう使い方は駄目でしょうか」とお話をさせていただいた時に、なかなかご了解が得られなかったということでございます。

　―現状分かっている範囲で、法律違反だったかどうかという認識は。

　それもちょっと申し訳ありませんけれども、パンゲアに関わるものの全て洗い出しをしておりますので、少々をお待ちしていただければと思います。

　―なるべく早くということだが、いつごろになりますか。

　現時点で大変膨大な資料を確認しておりますので、いつ終わるというのは本日明言できない。できるだけ速やかに、早くというふうに思っています。その上で皆さまにご報告をさせていただきたいと思います。

　―現状で、契約した6件に関してパンゲアと契約解除の考えは。

　それも中身を精査してからになると思います。

　―今週火曜（9月6日）の記者会見で湯崎英彦知事が「教育長はしっかり説明する必要がある」と発言しました。現時点で説明できていません。そのことについてどのように受け止めていますか。

　本当はきょうご説明申し上げたかったんですけど、あまりにちょっと書類、それから確認事項が膨大で、きょうご説明させていただけなかったことにつきましてはおわびを申し上げたいと思います。

　―なぜパンゲアと契約する必要があるのですか。平川教育長が推して契約しました。その説明を。

　私が推してということではない。

　―パンゲアを職員に紹介しています。

　それは公募型プロポーザル方式で決められていますので、私が決めたわけでもなければ、推したわけでもないので。紹介はいたしましたけど。パンゲアありきでやったわけではないです。

　―パンゲアを職員に紹介したのはなぜですか。

　1回目の契約の部分に関わります。それも含めて精査をしておりますけども、パンゲアありきでやっているわけではございません。私が推したわけでもございません。ただ今、学びの変革をやっていく中で、いろんな方々にご協力いただいていますけども、それはパンゲアだけではありません。いろんな方にです。本当に。役所というところはですね、どちらかというと、皆さんはどんなイメージをお持ちか分かりませんけども、前例主義で、前例踏襲で、それでいて自前主義というような感覚があるなら、私はそれを変えたいと思って。ただ、だからといって私はプロポーザルの委員ではございませんので、私が選ぶということはないです。

　―パンゲアの理事長とは、どれぐらい飲食やお付き合いがあったのですか。

　会食につきましては改めて調査しているところでございますけど、飲食だからというようなことでもないと思いますので、そんなこと言ったら私飲食できませんので。誤解のないように今後気を付けていきたいと思いますけど、じゃあ何回やったからどうだということではないと私は思っております。あくまでプロセスの中で公平を欠くようなことがなかったかどうかということについて、これは今、6件全て精査しておりますので、まずはその結果を皆さまに分かり次第速やかに公表させていただきたいと思っております。

　―パンゲアと癒着していたという認識はないということですか。

　ありません。

　―週刊誌報道によると、パンゲアの理事長と「バラトゲの会」を作っているとあります。これは事実ですか。

　作っておりません。私は作っておりません。メールマガジンのようなもので、私が主宰しているわけでもなければ、理事長がいらっしゃるかどうかはこれは理事長に聞いてみないと分かりませんけれども、まあ500～600人のメールの会です。そこからいろいろこういうことがニュースになっているんだなということがあったとしても、報道にあるような事実は全くございません。主宰もしておりません。

　―週刊誌報道では、自身の娘をパンゲアの事業であるサマースクールに通わせているとあります。これは事実ですか。

　それはプライベートなことなのでお答えは控えさせていただきたいと思います。家族に関わることですので。

　―それもパンゲアとの距離の近さを表すのではないですか。そのようにお考えにならないでしょうか。

　そうとは思っておりません。そうは捉えておりません。

　―パンゲアは県の一般競争入札の参加資格がないと指摘されています。そこについては問題がなかったという認識ですか。

　公募型プロポーザル方式の良さはプロポーザルの良さであるかと思います。プロポーザルをやる場合も参加資格というものをきちっと確認をしておりますので、プロポーザルであっても入札であっても一定の良さを生かして、取引をしている認識でおります。

　―今後、パンゲアに入札の参加資格を取得してもらう考えはないですか。

　それはこれからのことなので、まだ分かりません。

　―入札の参加資格がない事業者と契約していくことに対し、県民からの疑念を持たれるのではないですか。

　プロポーザルはプロポーザルの良さがあると思っております。今回の件は、工事とか物品調達とは違った企画物になります。ですから、企画物というのは値段ということではなくて、値段が安いとかそういうことではなくて、企画の良しあしを争うものです。そういう意味でプロポーザルが望ましいというふうなことでプロポーザルの形を取っていると思っています。

　―官製談合の疑念を持たれないような対策を講じると前回（8月8日）の記者会見で発言しました。具体的に今、対策を講じていますか。

　対策を講じて、またこうやって報道されていますので、一体どうしたら、こういうことにならないのかなと自分自身反省しています。

　―対策は何か具体的に行っていますか。

　ありませんていうか。正直、こういう報道になって、なんでこうなっちゃったのか本当に分からないです。分からないんです。私は別に誰かからお金をもらってるわけでもないですし、贈収賄でもなければ、何でもないので。どうしてこういうふうになさるのかというのが分かりません。ただただ県民の皆さまの幸せのために、お世話係として一生懸命やっているつもりなんですけども、足らない点があるんでしたら、それは部下のマネジメントもそうかもしれません。それは改めるということです。

　―県議会文教委員会での答弁は、虚偽答弁とお認めになったということですか。

　私自身は虚偽答弁とは考えておりません。また問いに対して、適切に丁寧にお答えすべきだったと反省はしておりますけど。こちらについてはまた文教委員会で改めて丁寧に説明させていただきたいと思っております。

　―文教委員会で答弁されたので議事録に残ります。議事録の訂正、取り消しをする場合、手続きが必要になります。

　ですから虚偽答弁とは考えていません。

　―訂正、取り消しをする考えはないですか。

　それを決めるのは私ではないと思っています。

　―文教委員会で、誤解されるような発言をしたという意味ですか。

　分かりづらかったかもしれませんけど、パンゲアの関与ありきで業者選定が行われていることが今回の前提です。これ自体が異なるというふうに思っています。文教委員会で「いたしません」と申し上げましたけど、パンゲアの関与ありきで業者選定が行われているのではないという趣旨を伝えたかったために、こうした答弁になってしまったということになります。

　―県議会に誤解させてしまったことについて、どのように受け止めますか。

　誤解を与えてしまったことについては言葉足らずだったというふうに反省しております。

　―今後、議会へおわびをする考えは。

　文教委員会で詳しく説明させていただきたいと考えています。

　―一連の報道で、県民の不信を招いています。ご自身の責任は。

　県民の皆さまにご不安とご心配を与えているということについては大変申し訳ないと思っております。調査の内容を含めてできるだけ早い段階で、ご説明をできるように努めてまいりたいと考えています。

　―説明する時点で責任を取る考えは。

　それもですね、まずは現在取り組んでいるNPOとの契約、確認、点検を早急に進めた上で、事実を明らかにしていくというふうに思っています。

　―辞職の考えは全くないということですか。

　それも重ねての答弁で申し訳ありませんけど、現在取り組んでいるNPOとの契約、確認、点検を早急に進めた上で、事実を明らかにしたいと思います。

　―文教委員会での発言は「パンゲアの関与ありきで業者選定が行われているのか」という問いではなかったですが。

　前提自体が、報道自体が事実と異なるというところからお話をした。きちっとご説明をすべきだったなと思う。メモを持っていなかったので。メモを持っているべきだった。

　―週刊誌で報道されている発言自体はあったのですか、なかったのですか。

　パンゲアの関与ありきで業者選定が行われているわけではなかった。なので「いたしておりません」と答えました。

　―会議内で発言があったのですか、なかったのですか。

　発言したかもしれませんけど、一言一句覚えていませんので、お答えする時点ではお話ができなかったということになります。

　―メモを改めて見たり、会議記録を見直したりしていないのですか。

　見ましたが、何度も申し上げますが、前提が…。

　―前提の話ではなくて、会議内でそういう発言自体があったのですか、なかったのですか。発言の趣旨は別として。

　それはちょっとよく覚えていません。

　―改めて会議記録を見ましたか。

　もしこの寄付者の方のご意向を現実化しようと思ったらという意味なので、予算化とかそんなふうには答えていません。メモになると短くなるので、そこを切り取られても趣旨とは違います。

　―200万円を寄付したのは誰なのですか。

　それはすみません、個人情報になりますので。

　―県教委に寄付があったのですか。

　学びの寄付金です。

　―寄付の時期は。

　個人情報で特定されるのでお答えできない。

　―仮にパンゲアの人が寄付したのなら「個人情報」では済まない問題です。

　パンゲアの方が寄付すると思いますか。

　―それは知りません。

　パンゲアの方ではないです。

　―関係者ではないと。

　関係者とかじゃなくて、パンゲアの方ではないです。

　―パンゲアに所属する人ではないと。

　違います。

　―教育長として、その寄付者とのやりとりの中で、どの段階でパンゲアという存在が出てきたのですか。

　パンゲアだけではなく、ほかの事業者にも当たっています。

　―ほかの事業者にはいつ当たったのですか。

　それも含めて調査していますが、パンゲアと同時期だと思います。